NO. 14
Feb 2016

図書たより

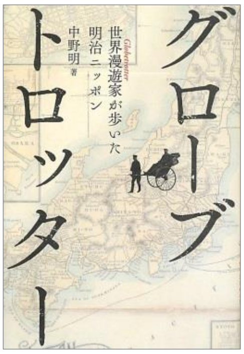
明治大学中野図書館

図書館員オススメの本

【中屋敷均著『生命のからくり』講談社, 2014 （講談社現代新書 2268)】

著者は序文で「葛藤(かっとう)」という言葉の語源が「葛藤(つづらふじ)」という植物の蔓の絡み合う姿からきている、生命は葛藤を持っていると書いている。それは、自分と同じものを複製し継続させること、新環境などに適応できる新しいものを作るということの両方が必要だという葛藤である。そのために生命がしていることは、2本の新しいDNA鎖の合成に違ったやり方をしたり、ゲノムの倍数化と有性生殖をすることであったりする。エラーや偶然からも幸運をつかむ。著者は生命の見事なからくりを最近の科学的知見も織り込みながら説明する。さらに、このからくりの相似形が人間の知的活動や文明の発展にもみられるという。上の「葛藤」のように各章は比喩などを使ってうまく導入される。漢字熟語や専門用語(章末に用語解説あり)にめげずに読み進めば、感動が待っているに違いない。

【中村明著『グローブトロッター ： 世界漫遊家が歩いた明治ニッポン』朝日新聞出版, 2013】



グローブトロッター(Globetrotter)とは「世界漫遊家」のことである。世界漫遊家と聞くと、豪華な船旅で旅行する大金持ちを想像する。本書は明治期の日本に世界一周旅行の途中に立ち寄ったさまざまなグローブトロッターたちを紹介している。開国直後の神秘の国ニッポンは外国人にとって新鮮であったようだが、現在の私たちにとっても外国人の目を通して描かれる明治期の日本はかなり新鮮である。

ジュール・ヴェルヌの『八十日間世界一周』を機に、世界旅行が盛んになり典型的な大金持ちの旅行者から、現代のバックパッカーのようにガイドブック1冊で通訳もつけずに日本国中を旅する一人旅の若者まで、さまざまなグローブトロッターが大勢いたことに驚く。そして、同じ明治時代とはいえ、護衛をつけなければ外国人の旅行は危険だった明治初期から、ホテル・鉄道・果ては通訳派遣会社までもが整備される明治後期への移り変わりは読んでいるだけでも面白い。時代もどんな身分かも関係なく、明確な目的を持った旅は充実するということが納得できる1冊である。

【神永曉著『悩ましい国語辞典 ： 辞書編集者だけが知っていることばの深層』時事通信社, 2015】

「辞書は発刊と同時に改定作業がスタートする」ことばの変化を観察していくのは辞書編集の主な仕事のひとつであるが、辞書では変化の結果だけしか記載できないことが多く、変化の過程を記述することは難しいという。そんな辞書編纂に36年関わってきた著者が、一番スリリングなことばの「変化の面白さ」を伝えるために、この本を書いたそうだ。

タイトルにも使われている「悩ましい」のように、現代語としては古語としての意味が失われていたにもかかわらず、古い意味が復活している語、「浮き足立つ」のように今まさに誤用が広まっている“要経過観察”の語など、日常的にことばの変化を観察している辞書編集者だからこそ知っている、ことばの思いがけないエピソードが満載だ。

【井上章一著『京都ぎらい』朝日新聞出版，2015】

皆さんは、生まれ育った場所、住んでいる場所に特別な感情を抱いているだろうか？
著者は嵯峨育ち、宇治住まいであるが、“自分は京都人である”と名乗ることを躊躇するという。政・文化の中心として永い間栄えてきた京都（洛中）に住む人たちが、今なお持っている意識を、ここまで言っていいのか？という勢いで、語りつくしている。
京都で行われたプロレスで、宇治出身のレスラーが京都へ帰ってきたとアピールするや、「宇治のくせに、京都というな」というヤジが飛ぶ、というエピソードから、多くの寺は、武将をもてなすホテルの役目をし、そのために、庭・精進料理が磨き上げられたという、個人的見解。明治維新の際、新政府が行った京都への歴史的講釈（？）まで、幅広く京都を語っている。
先日、2016年新書大賞となる。

【別冊太陽編『こわい絵本 ： おとなと子どものファンタジー』平凡社，2015】

子ども向けの本は、意外に怖い本が多い。
この本では、古今東西の約80冊の「こわい絵本」が大集合。非常に幅広く紹介されているので、懐かしい本もあるし、初めて見るような本もあるだろう。
日本の子どものトラウマ本の定番『ねないこ　だれだ』や、時代を経ても恐ろしい怨霊譚『耳なし芳一』……お化け、妖怪、魔法、死、戦争、学校、日常、鏡と「こわいもの」は多岐にわたる。個人的に気になった本は、今は無きニューヨークの世界貿易センタービルのツインタワーに綱を張って渡った実話（！）絵本『綱渡りの男』。
「こわい」とは恐怖や嫌悪など、マイナスなものばかりではない。「異常」を知ることによって世界の多様性を、「死」を認識することで「生」の奥行きを感じることが出来るのだ。
紹介されている本は元々子ども向けのため、文章はリズミカルで絵も美しい！

図書館からのお知らせ

★ 図書館は日曜日も開館しています！

日曜日の開館時間

10：00　～　17：00